

○水産業強化支援事業事後評価報告書

| 事業実施年度 | 目標年度 | 事業実施主体 | 事業計画の内容 |
|--------|-------|--------|------------------------|
| 平成29年度 | 令和6年度 | 大紀町 | 小規模漁場施設(つきいそ)2,030㎡の整備 |
| 平成29年度 | 令和6年度 | 紀北町 | 小規模漁場施設(つきいそ)1,100㎡の整備 |

○水産業競争力強化緊急施設整備事業事後評価報告書

| 事業実施年度 | 目標年度 | 事業実施主体 | 事業計画の内容 |
|-----------|-------|------------|----------------------|
| 平成28年度(繰) | 令和6年度 | 鳥羽磯部漁業協同組合 | 水産鮮度保持施設(製氷・貯氷施設)の整備 |

水産業強化支援事業（改善計画）事後評価報告書

| | | | |
|------------|-----------------------------|--|---------------------------|
| | | 大紀町水産課 | |
| 政策目的 | 水産業経営の強化 | | |
| 政策目標 | 経営構造改善目標 | | |
| 事業実施主体 | 大紀町 | | |
| 実施地区名 | 大紀町錦地先 | | |
| 実施期間及び目標年度 | 実施期間 | 目標年度 | |
| | 平成 29 年度 | 令和 6 年度 | |
| 交付金額 | 8,640,000 円 | | |
| 事業計画の内容 | 小規模漁場施設(つきいそ)の整備 | | |
| 評価 | 成果目標 | 刺し網漁業の一人あたりの漁獲量 | |
| | | 現状値 | (令和4年度～令和6年度平均) 221.1kg/人 |
| | | 目標値 | (令和4年度～令和6年度平均) 483.5kg/人 |
| | (1) 現状値の説明 | 刺し網漁業の一人当たりの漁獲量 = 漁獲量(R4～R6平均) ÷ 刺し網漁業者数(R4～R6平均) = 1,622 kg ÷ 7人 = 221.1 kg/人 | |
| | (2) 地域への経済効果 (ハード事業のみ) | 漁場の拡大により、一定の漁獲量の増加と所得向上に寄与している。つきいそ造成を行うことで、定着性が高く、高値で取引されるイセエビの増殖を図り、漁獲高を向上させることで、漁家経営が安定化する。また、高齢者でも操業に不安のない地点につきいそを整備したことで、漁業者の労働環境改善に寄与している。 | |
| | (3) 資源管理の取組状況等 (ハード事業のみ) | 刺し網漁業者の漁場として資源状況に配慮しながら利用している。イセエビ資源の減少が懸念されるため、稚エビの再放流を行っている。 | |
| | (4) 所見 | 目標未達の原因として、平成29年から継続して発生している黒潮大蛇行の影響で、イセエビ幼生の着底場所や稚エビの生育場所である藻場が衰退したことが考えられる。また、近年混 | |

| | | |
|----------------|--------------|--|
| | | <p>獲される稚エビも大きく減少しており、このことからイセエビ資源そのものが減少していることが懸念される。さらに、漁業者の高齢化により刺網漁業の出漁日数が減少したことも原因の一つとして考えられる。</p> <p>※1:イセエビの資源量(混獲された稚エビ) (計画時 H29:2,763 尾⇒R4:2,210 尾、R5:890 尾、R6:594 尾)</p> <p>※2:イセエビ漁獲量 (計画時 H29:8457.5kg⇒R4:1871.4kg、R5:1801.1kg、R6:1192.1kg)</p> <p>※3:刺し網漁業出漁日数 (計画時 H29:80 日⇒R4:61 日、R5:52 日、R6:60 日)</p> |
| | (5) 評価機関の意見等 | |
| 今後の改善方向等に関する分析 | | <p>当地域では令和7年度からイセエビ幼生の着底場所や稚エビの生育場所である藻場を復活させるため、藻場の保全活動を開始した。また、再放流する稚エビのサイズを大きくすることや、他地域で取組のあるイセエビコレクターなど人工的に稚エビの住処を設置することについても検討する。</p> |

水産業強化支援事業（改善計画）事後評価報告書

紀北町農林水産課

| | | |
|------------------------|---|--|
| 政策目的 | 水産業経営の強化 | |
| 政策目標 | 経営構造改善目標 | |
| 事業実施主体 | 紀北町 | |
| 実施地区名 | 長島地区 | |
| 実施期間及び目標年度 | 実施期間 | 目標年度 |
| | 平成 29 年度 | 令和 6 年度 |
| 交付金額 | 4, 6 9 8, 0 0 0 円 | |
| 事業計画の内容 | <p>小規模漁場施設（つきいそ 自然石 1,100 m³）を設置することで、イセエビ等の生息場所を造成する。イセエビは、漁獲量が比較的安定し、価格も高いため当地域で重要な魚種となっている。そのため、本事業によりイセエビの漁獲量の増大を図ることで、今後の安定した漁家経営を実現する。</p> | |
| 評価 | 成果目標 | 刺し網漁業の一人あたりの漁獲量 |
| | 現状値 | （令和 4 ～ 6 年度平均） 674.1 kg/人 |
| | 目標値 | （令和 4 ～ 6 年度平均） 862.3 kg/人 |
| | （1）現状値の説明 | <p>刺し網漁業の一人あたりの漁獲量 = 漁獲量（令和 4 ～ 6 年度平均） ÷ 刺し網漁業の漁業者（令和 4 ～ 6 年度平均） = 37,523kg ÷ 56 人 = 674.1 kg/人</p> |
| | （2）地域への経済効果（ハード事業のみ） | <p>地元漁港への水揚げが増えることで、地元のスーパー、民宿業者、水産加工業者への提供が増え、地域への経済効果につながっている。しかし、令和 3 年度以降、刺し網漁業の漁獲量が大幅に減少しており、目標値を下回った。それに伴い漁獲金額も減少しているため、地域への経済効果も想定より少ないと考えられる。</p> |
| （3）資源管理の取組状況等（ハード事業のみ） | <p>資源保護のための活動として、三重県下のエビ網漁の解禁日は 10 月だが、当地区では 10 月一杯を禁漁期間と定め、</p> | |

| | | |
|----------------|--------------|--|
| | | <p>1 1月からエビ網漁を解禁している。</p> <p>また、漁獲されたイセエビの小型個体を買取り、禁漁区へ再放流し、資源量の維持を図っている。</p> |
| | (4) 所見 | <p>改善計画の期間である令和4年度以降、新型コロナウイルスの感染拡大が収束し、飲食店への需要は回復したが、令和3年度以降、刺し網漁業の漁獲量が大幅に減少傾向におり、それに伴い漁獲金額も減少している。その理由として、黒潮大蛇行の継続による海水温の上昇が影響していると考えられる。特に、食害生物による摂食行動の長期化により、当地域で重要な魚種となっているイセエビの生息場所である藻場が減少し、資源量も減少している。また、漁業者数の減少や燃料高騰による漁の回数の減少なども水揚げ量減少の要因と考えられる。</p> |
| | (5) 評価機関の意見等 | |
| 今後の改善方向等に関する分析 | | <p>イセエビの生息場所である藻場を増やすため、藻場再生の活動を継続する。また今後、黒潮大蛇行の変化に伴う漁場の状況を注視しながら、現在残っている藻場を守っていくことで、イセエビ資源の増加を目指す。</p> |

水産業競争力強化緊急施設整備事業事後評価報告書

| | | | | |
|------------|--|-------------------------------|-----|-------|
| | | 鳥羽磯部漁業協同組合 | | |
| 目的 | <p>鳥羽市の離島域に属する答志島、神島、菅島では、伊勢湾の恩恵を受けた漁船漁業が盛んにおこなわれ、特に答志島と神島では、伊勢湾全域を漁場とした機船船びき網漁業が盛んにおこなわれております。</p> <p>市場や消費者の高鮮度志向の高まりに伴い、船びき網漁業での氷需要が増加し、既存の製氷施設だけでは十分な氷を確保することが難しく、他地域にも氷の購入に行かなければなりませんでした。</p> <p>そのため、新たに製氷施設を整備することで、漁業者の燃料費の軽減、労働時間の短縮及び魚価の向上に繋げ、地域水産業の競争力を強化することを目的としております。</p> | | | |
| 目標 | 水産業競争力強化 | 整理番号 28-1 | | |
| 事業実施主体 | 鳥羽磯部漁業協同組合 | | | |
| 実施地区 | 鳥羽市答志地区 | | | |
| 実施期間及び目標年度 | 実施期間 | 目標年度 | | |
| | 平成 27 年度～令和 6 年度 | 令和 6 年度 | | |
| 助成金額 | 185,532,000 円 | | | |
| 事業計画の内容 | 鉄骨 3 階建て 床面積 405.29 m ² 製氷 15 トン/日×2 基、貯氷 100 トン | | | |
| 評価 | 取組の目標（KPI） | 1 経営体あたりの漁業所得向上 | | |
| | 基準年 | (平成 26 年度時点) 1,289 千円 | | |
| | 現状値 | (令和 5 年度末時点) 2,071 千円 | 増加率 | 60.7% |
| | 目標値 | (令和 5 年度末) 1,425 千円 | 増加率 | 10.5% |
| | 成果目標 | 製氷施設の整備を通じて、漁業経費（氷購入経費）の削減を図る | | |
| | 現状値 | (令和 6 年度末時点) 16,460 千円 | | |
| | 目標値 | (令和 6 年度末) 23,388 千円 | | |
| (1) 現状値の説明 | <p>取組の目標(KPI)は、基準年から漁業所得を 10%以上向上させることとしています。算出方法は、鳥羽磯部地域における 1 経営体あたりの漁業所得＝1 経営体あたりの漁業収入-1 経営体あたりの漁業経費としています。</p> <p>成果目標の内容は、受益地区の船びき網漁業における漁業</p> | | | |

| | |
|----------------|--|
| | <p>経費（氷購入経費）の削減としています。成果の考え方は、施設整備に伴う、氷購入に係る経費の削減を成果指標としています。</p> <p>算出方法は、船びき網漁の盛期である7月～9月のデータを基に目標年度である令和6年度の氷購入金額及び購入に係る経費（燃料費、労務費）の合計を「現状値」としています（なお、施設整備後は、氷を購入するために他地区へ行く必要がなくなり、それに伴う燃料費および労務費の発生がなくなりました）。</p> |
| （2）地域への経済効果 | <p>氷の安定供給により、市場には高品質な水産物が安定的に供給され、漁業者のみならず流通業者等においても取引機会の拡大や取引の安定化が図られています。これにより、県内の水産関連産業に好影響が及び、広い範囲で経済的な波及効果をもたらしています。</p> |
| （3）所見 | <p>労働時間の短縮、氷の安定供給による魚価の向上、漁業経費の削減に繋がっています。</p> <p>取組の目標（KPI）及び成果目標については、実績として目標を達成することができました。</p> |
| （4）評価機関の意見等 | |
| 今後の改善方向等に関する分析 | <p>今後は、整備した製氷施設で生産された氷をさらに有効活用し、これまで以上に徹底した鮮度保持と品質管理に取り組んだ水産物を供給することで、船びき網漁業をはじめ、対象地域全体の魚価向上を図るとともに、漁業生産額の増加を目指します。</p> |